

「もしも」から「いつも」の防災へ

地域教育推進ネットワーク東京都協議会 地域・団体連携協働部会
外部団体と連携した防災教育プロジェクト

首都直下地震は、いつ起きるか分かりません。震災が起こってからでは遅い、それが、阪神・淡路大震災や、東日本大震災からの教訓です。

防災について考え、体験し、学ぶ場を、できるだけ日常生活の中に作ることを目標に、「外部団体と連携した防災教育プロジェクト」ではモデル事業を実施してきました。1日のイベントであっても、その後に家庭や地域、校内での話合いや具体的な防災への行動につなげてほしい、という願いから、児童生徒だけではなく家族で参加できる機会になるように、また、自宅に持って帰り、家庭での話合いのきっかけとなるワークシート(裏側に家庭での防災チェックリストを印刷)を渡すなどの工夫もしてきました。

ここでは、このプロジェクトの中で実施した体験プログラムをいくつか紹介します。

親子で体験、地域と連携した防災教育プログラム

目的 災害から自分の身を守るための知識や安全な行動について学ぶとともに、地域で助け合うことができる関係を作ること。

放課後子供教室で防災について学ぶ

【指導者】 放課後子供教室関係者や保護者、地域住民等が事前研修を受講して当日に指導する。
ほかに、消防署等に協力を依頼した体験コーナーも設置する。

【支援団体】 NPO法人プラス・アーツ

★下記の体験コーナーを設置し、受付で会場案内とスタンプカードを渡します。

それぞれのコーナーで体験をしてスタンプを集めると、最後にアルファ化米の非常食をもらえるというゲーム性も持たせて実施しました。

- 新聞紙の紙食器作り
- 防災カードゲーム「なまずの学校」
- 毛布担架でタイムトライアル(毛布担架搬送)
- 身近なもので応急手当
- 空き缶ランタン作り
- 家具転倒防止ワークショップ
- 火おこし体験
- 起震車体験



家具転倒防止ワークショップ

特別支援学校で実施した親子で参加する防災イベントでの体験コーナー

- 紙食器づくり&乾パン試食
- カードゲーム「ぼうさいダック」
- バケツリレー
- ジャッキアップゲーム
- 水消火器的当てゲーム
- 身近なもので応急手当
- 非常持ち出し袋に何入れる?
- 毛布担架でタイムトライアル
- 災害用トイレを知る
- 避難所パーティーに絵を描こう



事前研修会 NPOスタッフから指導法を学ぶ

地域で防災サバイバルキャンプ

【指導者】 NPOスタッフ、大学生、防災課、消防署、消防団等

【支援団体】 NPO法人コドモ・ワカモノまちing

★区立の防災公園を会場として、地域の方や大学生と一緒に実施しました。

- 防災公園についての説明
- 災害用深井戸の説明、マンホールトイレ組み立て、備蓄倉庫の説明
- 「かまどベンチ」で火起こし、昼食づくり
- 新聞紙で紙食器を作り、紙食器を使って食事
- 防災体験コーナー
- 地域探検…消火器の場所確認、就寝用の段ボールや新聞紙等を探す
- 水洗トイレを使わず、簡易トイレを設置して、実際に1泊2日で使用
- 集会施設の会議室を、避難所として就寝スペースづくり



初めて火おこしを体験



いろいろな世代が参加

中学生・高校生の防災教育プログラム

目的 自分の身を守り、身近な人を助け、避難所の運営など地域に貢献できる人材を育成すること。

自分の身を守ることを第一に伝える一方で、中高生は助けられる側ではなく、助ける側になれることを伝えていくこと。避難所等で役立つ技術を学ぶとともに、支援活動をする方々と出会い、指導を受けることで、助け合うことの大切さも学ぶ機会にすること。



自分たちで考えることを大切に

高校の宿泊防災訓練でクラス単位の体験活動

【指導者】 専門家・NPOスタッフ、企業、区市町村防災課、消防署、地域ボランティアセンター等

【支援団体】 災害救援ボランティア推進委員会、大学生スタッフ

【事前学習】 大震災の被害の実際の説明(映像使用)、防災を学ぶ必要についての講義

【体験当日】 教室、体育館、屋外等にクラス数の体験コーナーを設置した。

クラスごとに20~25分ずつ体験し、全てのコーナーを体験できるようにする。

★1学年6クラスの都立高校で実施した例(各コーナー25分体験+移動5分)

- ① 煙体験、起震車体験<消防署>…昇降口前
- ② 負傷者搬送体験<消防署>…体育館と校舎の間
- ③ 三角巾・応急手当<消防署>…体育館入口側
- ④ 非常食<災害救援ボランティア推進委員会>…剣道場
- ⑤ 明かりの大切さを学ぶ<株式会社ルミカ>…柔道場
- ⑥ 災害用トイレについて<NPO法人日本トイレ研究所>…体育館ステージ側



新聞紙の紙食器作り

協力団体からのメッセージ

■ 災害救援ボランティア推進委員会 宮崎賢哉さん <http://www.saigai.or.jp/>

児童生徒に「自分はこのことでもできるんだ!」と気付いてもらえるような体験・指導を心がけています。普段やらないことは災害時にもできない反面、災害時を意識し学び、体験することがいざというときの行動につながります。児童生徒が災害時の不安や恐怖に友人・家族・教員と共に立ち向かい、自らの意志で命を守る行動ができるよう、きっかけ作りをしています。

■ NPO法人プラス・アーツ 百田真治さん <http://www.plus-arts.net/>

「防災訓練の参加者を増やしたい」、「防災意識を高めたい」といった悩みを抱えている地域に対して、「楽しみながらしっかり学ぶ」ノウハウをお伝えしています。放課後子供教室や授業に取り入れられた事例を紹介し、無理なく続けられる開催地域のスタイルに合った防災教育と一緒に考えていきます。被災体験者の方が実際に役立ったという防災アイテムやアイデアを紹介しているHP「地震イツモ.com」も是非、御覧ください。

■ NPO法人コドモ・ワカモノまちing 星野諭さん <http://www.k-w-m.jp/>

「感育」=感動・感性・感謝の心を育むをコンセプトに、知識だけではなく、遊びや体験を通じて感じて学べる様々な防災プログラム(小・中・高の防災授業、地域や企業の防災イベント、3.11震災復興活動の講演等)を実施しています。自分の身は自分で守り、仲間と助け合い、地域とつながるためには、日々の意識「もしもからいつも」が大切。「感じる・つながる・つくる」場を、「まち」につくっていきましょう!

■ NPO法人日本トイレ研究所 加藤篤さん <http://www.toilet.or.jp/>

東日本大震災で大問題だったのが「トイレ」です。特に、子供や高齢者、障害者、女性、外国人などの災害時要援護者にとっては深刻であったと聞いています。それにもかかわらず話題に上がることはあまりありません。まずは、災害時にトイレがどうなるかを伝え、一人一人が出来ることを知ることが大切です。災害時のトイレを知る、見る、座ることを通して、備えにつながるプログラムを実施しています。健康と衛生の両方に深く関わる「トイレ対策」は、命に直結する課題です。

体験コーナーの例

モデル事業では、ここに掲載したような体験コーナーを組み合わせて実施しました。少人数での体験となり、大人数で話を聞くだけ、見るだけ、という内容ではなくなります。また、指導者と児童生徒との距離が近くなるため、児童生徒の反応に合わせた内容に変えながら説明したり、質問を出しやすいというメリットがあります。体験コーナーの進行例や教材については、「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」のHP「地域・団体連携協働部会」で紹介しています。

ネットワーク 東京都 検索

事前に指導者役が実施方法を学び、当日に指導する体験コーナー

専門家に指導を依頼するだけでなく、保護者や地域住民、大学生や高校生が事前に指導法を学び、児童生徒に指導する体験コーナーも実施してきました。

事前に指導法を学び当日に伝える経験が、知識を確かなものにすると同時に、地域全体の防災への関心も高めます。地域の方や保護者を対象とした研修会では、休憩時間に家庭での備蓄物や地域の避難所等についての情報交換も自然に行われていました。

■ 新聞紙で作る紙食器

新聞紙でコップやお皿を作り、ビニール袋を被せて水や麦茶を飲んだり、非常食を食べてみます。2枚重ねると、熱い汁物を入れることも可能です。



大きめの新聞紙コップを重ねると、豚汁も大丈夫

食器棚が倒れて食器が割れた時や、配給された食べ物を分けて食べる時に使えます。また、水道が使えなくなり、食器を洗えない場合に、ビニール袋やラップをかけて使うこともできます。写真等の資料を見せ、ライフラインが止まり避難生活が困難な状況になることを説明してから作ることも重要です。

1回だけで終わるのではなく、日頃から野外活動時や放課後子供教室の休憩時間等、水分を取る場面で作成し、折り方を忘れないようにするとともに、防災について話す機会を作りましょう。

■ バケツリレー

- ① 1回目はバケツを使ってリレーを行い、バケツリレーの方法を確認
- ② 2回目は過去の災害でバケツが大量に手に入らず、身近にあるものが役に立ったことを伝え、事前に用意した身近にあるもの(例:ゴミ箱、ビニール袋、鍋、料理用ボール、プラスチックケース等)の中から選んで実施
- ③ 2チームに分かれてゴミバケツが水で一杯になるまでの時間を競う。
大きいバケツに、印を付けた位置までの水とビーチボールを入れておき、ボールが落ちると終わり、とすると、分かりやすく盛り上がる。

子供たちはバケツリレーの経験が少ないので、1回目終了後に何を選ぶかとともに、どのように並ぶと早く運べるか、考えさせます。

■ 校内や地域の防災倉庫の場所と資器材・備蓄物の確認

倉庫内で説明を聞くだけでなく、事前に倉庫に入っている物を予想させ、実際の備蓄内容と比較する方法もあります。こん包を開けて現物を見る、実際に使ってみるといこともできるとよいです。

防災倉庫の中身なあに？クイズ <NPO法人プラス・アーツ>

- 防災倉庫の場所に行かなくても、教室や体育館等で実施できます。
- ① シートの上に資器材を10~12個並べ、大きなシートで隠しておく。
 - ② 防災倉庫の写真を見せながら、どのような場所にあるか、鍵は誰が持っているかを説明
 - ③ シートをめくり、1分間で覚えてもらう。
 - ④ シートで隠し、何があったかを答えてもらう。
全ての回答が出ることが目的なので、ヒントを出してもよい。
 - ⑤ 資器材の使い方を説明する。
 - ⑥ 自宅から一番近い防災倉庫を調べておくように伝える。

■ カードで学ぶ非常持ち出し袋

神戸学院大学 防災・社会貢献ユニットの学生が作成したキット

- ① 非常持ち出し袋の中身カード1セットと、持ち出し袋シートを各班に配る。
- ② 救援物資が運ばれてくると言われている3日間を生き抜くために必要なアイテムを9個、話し合いながらカードの中から選び、持ち出し袋シートの上に置く。
- ③ 班ごとに何を入れたか、なぜそれを選んだか、何と迷ったか等を紹介する。
- ④ 選んだ物がどうして必要かを説明する。

カードの裏には、阪神・淡路大震災体験者の聞き取りから得られたアイテムについてのコメントが書いてあります。「スペシャルカード」があり、キットのカードには無いけれども自分にとって大切なものを入れることができます。



特別支援学校で親子を対象としたイベントでは、このカードを参考にしてA4判で作ったカードをホワイトボードに貼り、家族で話し合いながら選ぶ体験コーナーを実施。カードセットには無かった「サポートブック」(児童の特性や接し方について保護者が記入し、ボランティア等が児童の支援に役立てるためのノート)や、「耳栓」など、事前に保護者との話合いで提案されたカードも追加作成して使いました。

企業や地域の機関・団体等に協力を依頼して実施する体験コーナー

■ 応急手当、担架搬送、AEDの使用法、起震車体験、煙ハウス体験、消火器の使い方等 <消防署等>

■ 災害用トイレの組立て、備蓄倉庫や避難場所等の説明 <区市町村防災課等>

近隣の公園や学校にマンホールトイレがあれば、その場所でトイレの組立てを行うと、より具体的な体験になり、発災時の行動につながります。



公園内のマンホールトイレを組み立ててみる

■ 災害ボランティアの活動を知る ~都立高校で実施した例~ <地域ボランティアセンター、防災ボランティア団体等>

- ① 地域で募集が予想される災害ボランティア活動の募集シートを複数枚掲示する。
- ② それぞれの活動内容を説明する。
- ③ グループに分かれ、自分たちがどのボランティアに申し込むか話し合う。
- ④ 代表者がボランティア登録用紙に記入して申し込む。

保育園や高齢者施設への水の運搬、瓦礫(がれき)の片付け、避難所の掃除、避難所で子供の遊び相手、支援物資運搬など、具体的な活動内容が分かり、自分たちでできる活動について考えることができました。



災害ボランティアの方から説明を受ける高校生

■ 明かりの大切さを学ぶ <株式会社ルミカ>

株式会社ルミカの商品には、コンサートや釣りで使うケミカルライトのほかに、防水仕様になっている防災用ライトがあります。都立高校の宿泊防災訓練内の体験コーナーで、社員の方が次の内容で指導しました。

- ① 停電した時にライトとして使える物は何かを聞き、ホワイトボードに書き出す。
- ② 出された物のメリットとデメリットを考える。
- ③ 防災用ライトの紹介
- ④ 本体を曲げることで発光する仕組みの実験
- ⑤ 備えることの大切さについての話

教室で夕食の非常食を食べる時に、照明を消し、防災用ライトを使ってみたクラスがありましたが、数本のライトでも明るく感じられ、明かりがあることで気持ちが変わり安心できるという声があがりました。



2液を混ぜると発光する実験で歓声が